

の草木もねりわたる計まかせたるこそ、白雨の名残覺へて、さながら涼風たてるに、夕の月の庭にも、木にも、草葉にも、きらめきあへるぞ、命ながえのひしやくのそこゐけなんもおしげなれ、かかる樂を打すて、無分別か名の爲か、たま〜水車にやとはれて、一生目くるめくほどめぐらさる、は、そなたの爲にうとましけれ、

月かけをなぐるやおしき水ひまやく

炎暑先秋草木紅 朱簾暮卷待南風 不思儀卿龍王歎 少水自由雨大空

〔下學集〕下器財茶柄酌チャビシヤク

〔毛吹草〕山城 茶柄杓大津柄杓ト云 和泉 茶柄杓 攝津 竹柄杓竹柄杓

〔元祿〕萬買物調方記諸工商人所付いるは分

ひ 大坂之分 ひさくや あまが崎町理右衛門

〔攝陽群談〕十六名物土産同山湯杓 同所郡有馬ニアリ茶杓手水杓水打杓等竹ノ内皮ヲ曲テ作之、

〔下學集〕下器財澆水囊シヤクスイコシ

〔書言字考節用集〕七器財水囊スイコシ正曰澆水囊本名

〔毛吹草〕攝津 竹水囊

〔元祿〕萬買物調方記諸工商人所付いるは分

す 大坂之分 すいのうや 御だうすぢ 同 御れうのまへ

〔書言字考節用集〕七器財上戸本名轉注

〔物類稱呼〕四器用漏斗シユウ玄やう酒を器にう 上野にてすひかん又すひはくなどといふ、

〔和漢三才圖會〕三十一庖厨具漏斗 俗云上戸

三才圖會云、漏斗皆出入權伯之器也、不知始於何時、疑起自近代、

水囊

漏斗